

令和3年4月12日
海 事 局
港 湾 局

スエズ運河庁長官への表敬について ～スエズ運河コンテナ船座礁事案に関するエジプト政府との対話～

現地時間4月11日、齋藤 大臣官房技術審議官（海事局担当）は、能化（のうけ） 在エジプト日本国大使とともにラビア スエズ運河庁長官を表敬し、スエズ運河コンテナ船座礁事案へのエジプト政府の対応に謝意を伝達するとともに、二国間の協力強化に向けた意見交換等を行いました。

1. 背景

- 現地時間3月23日（火）、我が国の船主が実質的に所有するコンテナ船「EVER GIVEN（エバー・ギブン）」がスエズ運河内で座礁し、同運河の通航が不通となった事案については、現地時間29日（月）に無事離礁し、同日より運河通航が再開されました。
- これを受けて、国土交通省は順次4名の職員等をエジプト・アラブ共和国に派遣しました。
- また、現地時間4月11日（日）、齋藤 大臣官房技術審議官は、能化 在エジプト日本国大使とともにラビア スエズ運河庁長官を表敬しました。

2. 表敬の概要

- 今回の表敬（別紙参照）は、我が国を含む世界経済において極めて重要なシーレーンであるスエズ運河の早期復旧に尽力したスエズ運河庁関係者に対して謝意を伝えるとともに、今後の二国間の協力強化に向けた意見交換等を行うことを目的としたものです。
- 冒頭、能化在エジプト日本国大使から、「EVER GIVEN」座礁後、スエズ運河通航の早期再開を実現したスエズ運河庁の取組を高く評価する旨伝えました。また齋藤大臣官房技術審議官から、同コンテナ船を離礁させるため昼夜問わず対応に当たった同庁に謝意を伝え、この結果は船主にとってだけでなく、同運河を通航する船舶の7%を占める日本の海運業、さらには世界海運全体にとっても素晴らしい結果となった旨述べました。加えて、運河内（グレートビター湖）で停泊中の“EVER GIVEN”が早期に運航を再開できるよう要請しました。
- その後、ラビア長官より本表敬に対する謝意が述べられ、本事故についての発生から現在までの同庁における対応状況について説明がありました。

- 次に、齋藤技術審議官から、スエズ運河の安定輸送や更なる活用に向けた日本・エジプトの二国間関係強化の取り組みについて提案し、先方から好意的な反応がありました。
- ラビア長官より最後に、本事故を機に日本・エジプト両国の友好関係を更に強化していきたい旨述べられ、日本側からも賛同しました。

連絡先

国土交通省海事局安全政策課 松尾、深石

TEL : 03-5253-8111 (内線 : 43-261, 43-502)

国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室 平澤

TEL : 03-5253-8111 (内線 : 46-462)



【ラビア スエズ運河庁長官 表敬】

[出席者]

(1) エジプト側出席者

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| ① Osama Mounier Mohamed Rabie | スエズ運河庁長官 |
| ② George S. Nicola | スエズ運河庁長官室秘書官 |

(2) 日本側出席者

- | | |
|----------------------|--|
| ① 能化 正樹 (のうけ まさき) | 在エジプト日本国特命全権大使 |
| ② 斎藤 英明 (さいとう ひであき) | 国土交通省大臣官房技術審議官 (海事局担当) |
| ③ 高橋 治 (たかはし おさむ) | 同省海事局総務課外国船舶監督業務調整室長 |
| ④ 巢籠 大司 (すごもり まさし) | (独) 海技教育機構教授 |
| ⑤ 是松 恭介 (これまつ きょうすけ) | 前 在エジプト日本国大使館二等書記官
現 中国地方整備局港湾空港部クルーズ振興・港湾物流企画室課長補佐 |
| ⑥ 松岡 晋是 (まつおか しんじ) | 在エジプト日本国大使館二等書記官 |



表敬の様子 (中央:ラビア長官、右:斎藤大臣官房技術審議官、左:能化在エジプト日本国大使)



ラビア長官より記念の盾を受け取る斎藤大臣官房技術審議官